

問題【国語】

次の言葉は外来語です。それぞれどこの国の言葉がも
とになって生まれたものか答えましょう。

1. カルタ 2. カルテ 3. アラカルト 4. カード

豆知識 雑学コラム

「母国」の特徴くっきり

日本語の単語は、その由来によって、和語、漢語、外
来語の三つに分けることができます。和語とは弥生時代
から使われている日本古来の言葉のことで、漢語は漢字
の伝来といっしょに日本に入ってきた中国語由来の言葉
です。そして、和語や漢語以外の他の言語から取り入れ
られた言葉を外来語と言います。今回は外来語について
みてみましょう。

今回、出題した「カルタ (carta)」、「カルテ (karte)」、
「アラカルト (a la carte)」、「カード (card)」
を発音やアルファベット表記してみると、これらの言葉
は似ていることが分かりますよね。実はこれらの言葉は
全て古代ギリシア語で紙を表す「カルテース (khartes)」
という一つの言葉がいろいろな国に伝わり、それがそれ
ぞれの国で変化してできた言葉なのです。それぞれの言
語が別々の経緯で日本に入ってきたため、もともとは同
じ言葉なのに違う意味を持つ別の言葉として日本語に定
着していきました。

カルタはもともとポルトガル語由来の言葉です。戦国
時代にやってきた宣教師たちがやっていたトランプのよ
うなカードゲームのことをカルタと呼んでいたのが発祥
といわれています。これが江戸時代に今の「かるた遊び」
や「いろはかるた」を表すようになり定着しました。

カルテはドイツ語由来の言葉です。明治時代、ドイツ
から医学を学んだときに「患者の状態を書いた紙」のこ
とをカルテと呼んだことから今の言葉ができました。そ
の他にもドイツ語由来の医学用語はたくさんあり、アレ
ルギーやギプスもそうした外来語にあげられます。

アラカルトはフランス語です。これはフランス語で「カ
ルト」はメニュー表の紙を表していて、メニュー表から
好みの一品料理を選ぶことを「アラカルト」といい、そ
こから派生して一品料理のことをアラカルトというよう
になりました。

最後のカードは英語です。これは前の「カルタ」や「カ
ルテ」と違い、「ポイントカード」や「カードキー」な
どいろいろな場面で使われる言葉ですね。古く南蛮貿易
とともに伝わったポルトガル語の「カルタ」、進んだ医
学の技術を持つドイツの「カルテ」、美食の国のフラン
スから伝わった「アラカルト」、広く通用する英語の「カ
ード」とそれぞれの言葉を見てみるとそれぞれの国や言
語の特徴をしっかりと反映しているように思えて面白いで
すね。

【解答】

1. ポルトガル 2. ドイツ 3. フランス 4. イギリス